

第3回 ボランティア研修会

わかりやすかつた田中さんの講義

ボランティアとは志願兵

六月十五日十時より小倉北中央公民館で第3回ボランティア研修会が開催されました。参加者はボランティアさんをはじめ、コーディネーターさわやか役員十八名でした。講師は健和会大手町病院MSW田中與念子さんにお願いしました。田中さんは「ボランティアとは」という演題で九十分にとわって話していただきました。

自分が高校一年生の時にボランティアの田中講師



ランティア活動をした経験から「生きる」ということを学んだという話からはじまりました。又、ボランティアの定義を「本来は、有志者、志願兵の意味。社会福祉において、無償性、善意性、自発性にもとづいて技術援助、労働提供等を行う民間奉仕者」と規定されました。

京都の「ボランティア・ブック」を読み合わせ、ボランティア活動とはどんなものであるが具体的にしました。

①年に1回程利用者とボランティアの全員の集いを開くこと②全員で合意を形成するための話し合いを開くこと等提案がありました。「さわやか」でも、早速この提案を受入れ実践に移すようにしました。今、福祉行政の中で盛んに宣伝されている「ノーマライゼーション」について、本当のノーマライゼーションとは何であるか、説明がありました。

た。ノーマライゼーションとは、「正常化」「常態化」あたり前にみて接する」と訳され、障害者や社会的弱者が健常者と同等に扱われることを提唱したミッケルセンによって、社会通念になってきた。

コーディネイトの限界

パソコンを導入

更なる前進を目指し

「さわやか」が発足して早くも九ヶ月が経過しました。通院送迎も月を経ることに回数が増え、四月は百六十八回、五月は百六十回と、フル回転の状況です。

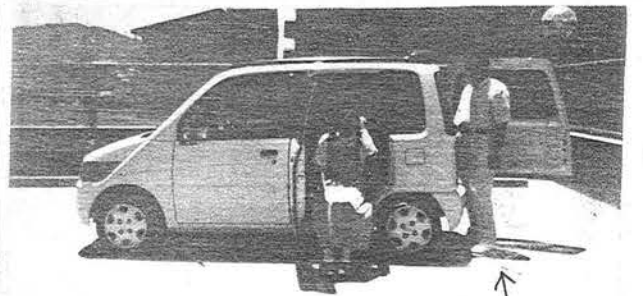
ボランティアさん五十四名利用登録者二十五名が現勢ですが、コーディネイトの方が平均八組をコーディネイトしなければならなくなります。

ところです。

福祉大学の講義を聞いていような錯覚に陥るほど、格調が高く、しかも理解し易いお話でした。

約三十分ほど質疑応答があり、色々な意見が出されました。

研修会は、十二時に終了しました。次回は、十一月頃に会食でもしながら、研修会を行いたいと考えています。



専用運転手 向田さん

専用運転手決まる

五月十六日に北九州ダイハツ販売より寄贈を受けた福祉車両の専用運転手さんが決まりました。

健和会大手町病院でCAPDをしている向田さんが、透析の合間を利用して、送迎をしてくれることになりました。今後は福祉車両「さわやか」が街中を走り回ります。

このように、寄付を受けられるのは、ひとえにボランティアの皆様のご送迎実績の賜物です。

全国的にみて、通院介護を「さわやか」ほどしているとこは現在見当たりません。政府が提案している介護保険法案にも通院介護は除外されています。在宅看護だけを保障でまかなくても、通院介護がなければ、本当の介護保険とは言えないのではないのでしょうか。

その意味でも、「さわやか」の果たす役割は大事なものがあります。ボランティアの皆様のご益々のご奮闘・ご協力をよろしく願っています。

資金は、社会福祉法人の病院から、一定額の寄付をいただけることになっていきます。法人が利益を出したら、福祉施設に寄付をしなければならぬとの規定にもとずき、「さわやか」が寄付を受けることになりました。



熱心に聞き入るボランティアさん